

総合農業技術センター試験研究課題事後評価表（評価委員会用）

試験・研究課題名

大課題名：野菜・花きのオリジナル品種育成と栽培技術の確立

小課題名：ピラミッドアジサイの新品種育成（H25～28）

担当者名：穴澤拓未、望月寛徳

評価項目	評価点	指摘事項
1 目的の達成度	4 / 5	県内品種の交配種から2系統の有望株を見出し新品種登録に至っていることから、目的の達成度は高いと考える。もう一方で、計画時の重イオンビームによる新素材有望株の作出にも期待したい。
2 研究成果の活用及び 実用化の可能性	5 / 5	県内育種系統から作出した新品種系統、特に早期開花品種や色変わり品種については、その新規性から活用の可能性が高い。取り扱う生産者が増えることが期待できる。
3 今後の発展性	4 / 5	ピラミッドアジサイとしての新品種は、地域ブランドの確立や産地形成の可能性があり、今後の発展性が期待できる。
総合評価	4 / 5	ピラミッドアジサイとしての新品種は、地域ブランドの確立や産地形成に繋がる研究であるが、育種には年月がかかるので、県としても地道な努力を継続してほしいと考える。

総合農業技術センター試験研究課題事後評価表（評価委員会用）

試験・研究課題名

大課題名：野菜の作期拡大技術の確立

小課題名：平坦地におけるキャベツ、ニンジンの冬期および早春期どり栽培技術  
(H26～28)

担当者名：赤池一彦、長谷川茂人

評価項目	評価点	指摘事項
1 目的の達成度	4 / 5	地域野菜の供給量が少ない冬季から早春期にかけての作型を開発したことで、当初の目的を達成したと考える。
2 研究成果の活用及び 実用化の可能性	5 / 5	開発した作型を既に他の品目に応用した研究を始めていることから、実用化の可能性は高いと考える。また、使用頻度の高い野菜栽培に向けた作型であり、対象農家が多いことから普及に希望が持てる。
3 今後の発展性	4 / 5	地域に応じた作型開発や他の品目への取り組みが期待でき、バリエーションが豊かになると考える。
総合評価	4 / 5	地域野菜の供給量が少ない冬季から早春期にかけての作型を開発したことで、当該期の農家収益の増加に繋がるのが期待できる。

総合農業技術センター試験研究課題事後評価表（評価委員会用）

試験・研究課題名

大課題名：野菜の作期拡大技術の確立

小課題名：高冷地における冬季のアスパラガス伏せ込み栽培技術の確立（H26～28）

担当者名：窪田哲、萩原裕一

評価項目	評価点	指摘事項
1 目的の達成度	4 / 5	県外他地域とは出荷時期の異なる作型を開発した。目的の達成度は高いと考える。
2 研究成果の活用及び 実用化の可能性	4 / 5	掘上げ時期をずらすことで連続的な収穫と作業の分散が可能なこと、栽培期間が峡北地域の農閑期にできることなど、実用化の可能性は大きいと考える。
3 今後の発展性	4 / 5	多くの品種に対応できるような工夫や、知見を更に積み重ねることで、より大きな成果が得られると考えられる。また、低迷している野菜価格の中では高冷地の冬の作目として発展性がある。
総合評価	4 / 5	農作物を対象とした研究においては、明確な答えを得るには長期に亘る実験が必要であることを感じさせる課題である。これらは継続研究をすることで、信頼性の高い結果を得ることが出来ると考える。また、労力と出荷時期の分散ができ新規の収入源として有効だと思われる。

総合農業技術センター試験研究課題事後評価表（評価委員会用）

試験・研究課題名

大課題名：鳥獣害防止策の検証

小課題名：既存技術の改善による獣害防止効果の向上（H25～28）

担当者名：本田剛、長坂克彦

評価項目	評価点	指摘事項
1 目的の達成度	5 / 5	多獣種を劇的に防止できる効果的な防止柵やグレーチングを開発した。これにより、当初の目的を達成したといえる。
2 研究成果の活用及び 実用化の可能性	4 / 5	新グレーチングの特許申請、コストや耐荷重性等を検証することにより、実用化の可能性が高い。
3 今後の発展性	4 / 5	ブドウ棚のような既存技術では対応困難であった所への設置を可能にしたことに、今後の普及が期待できる。また、導入効果の経時的な検証により、活用がよりし易くなると考える。
総合評価	4 / 5	鳥獣害に遭うと生産意欲までなくなることが多く、耕作放棄地になることもよくある。そのためにも、本技術は、獣害防止効果の向上に大きく資するものと考ええる。

総合農業技術センター試験研究課題事後評価表（評価委員会用）

試験・研究課題名

大課題名：野菜・花きの栽培改良

小課題名：富士北麓地域における夏秋どりスイートコーンの倒伏軽減技術の確立  
（H26～28）

担当者名：渡辺淳、加藤知美、志村貴大

評価項目	評価点	指摘事項
1 目的の達成度	4 / 5	地域における倒伏の要因および倒伏の品質への影響を明らかにし、それらに対応する作型、植物調節剤処理法、トップピング処理法を開発した。目的の達成度は高いと考える。
2 研究成果の活用及び 実用化の可能性	4 / 5	得られた成果のネットワーク的検証を行い、必要な点を改善することで実用化・活用への道は大きく広がると考える。
3 今後の発展性	4 / 5	地球温暖化による気候変動は年々激しさを増し、気象災害も多岐に亘ってきている。それらに対応出来る技術として発展性を期待できる。
総合評価	4 / 5	富士北麓地域における夏秋どりコーンの生産拡大により「富士山やさい」のブランド力強化が期待できる。

総合農業技術センター試験研究課題事後評価表（評価委員会用）

試験・研究課題名

大課題名：野菜・花きの栽培改良

小課題名：富士北麓地域における据え置き株を活用した切り花の新作型開発（H26～28）

担当者名：志村貴大、渡辺淳

評価項目	評価点	指摘事項
1 目的の達成度	4 / 5	据え置き株を活用し、切り花品質を市場出荷同等に維持しできる作型を開発したことで、目的の達成度は高いと考える。
2 研究成果の活用及び 実用化の可能性	4 / 5	直売向け栽培と考えられるが、省資源や省力に繋がる成果であり、また、高齢者、女性、新規就農者にも適した作型であるので、実用化の可能性は高いと考える。
3 今後の発展性	4 / 5	品種や作目を選定することで、直売向け新作型が普及する可能性が高い。
総合評価	4 / 5	据え置き株を活用し、切り花品質を市場出荷同等に維持しできる作型を開発したことで、地域の活性化が期待できる。また、品種として優れたものが据え置きで栽培が可能であれば、栽培農家にとってはありがたい話である。